

金子鷗亭 I期 ～漢字にこめた心

松前町出身の金子鷗亭(1906-2001)は、現代書の発展に大きな功績をのこした日本を代表する書家のひとりです。古典の研究を重んじながらも、現代の日本語にふさわしい書のあり方として、日本の近現代文学を題材とする「近代詩文書」運動を推し進めました。

鷗亭は十代の頃に札幌鉄道教習所で出会った大塚鶴洞(1886-1968)のもと、古典の臨書に取り組みます。1932年に上京し、比田井天来(1872-1939)のもとでさらに古典の研究を進めます。戦後、「近代詩文書」を築き上げた原点には、漢字の書があり、鷗亭は漢字の作品も多く残しています。

もともと中国で生まれた漢字は、日本に伝わり、ひらがなやカタカナが生み出されました。長い歴史の中で書家はそれらを学び、作品にしてきたのです。今回は、鷗亭とともに活動した、あるいは教えを受けた書家などによる、一文字で書かれたものから漢文や近代詩文書における漢字まで、多彩な作品をご覧ください。漢字が持つ意味に、書家の思い(心)が加わって表現された世界をお楽しみください。

出品作品リスト *No.1、7 函館市蔵(当館寄託)、2-6、8-15 当館蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	形状	寸法(縦×横、もしくは幅×奥行×高さcm)
1	金子 鷗亭	柳宗元詩 江雪	1956(昭和31)	墨・紙	屏風 (八曲一隻)	各 135.5 × 50.5
2	手島 右卿	妙	1968(昭和43)	墨・紙	額	103.0 × 68.0
3	稲村 雲洞	沍による	1986(昭和61)	墨・紙	額	78.6 × 177.2
4	宇野 雪村	是	1986(昭和61)	墨・紙	額	137.5 × 69.0
5	小川 東洲	鶴	1977(昭和52)	墨・紙	額	64.5 × 57.3
6	中野 北溟	舞	2015(平成27)	墨・紙	額	104.0 × 138.0
7	金子 鷗亭	小野十三郎詩 断崖	1955(昭和30)	墨・紙	額	68.0 × 134.5
8	石飛 博光	王昌齡詩 芙蓉樓送辛漸 (『石飛博光のちょっと書いてみたい漢詩』より)	2004(平成16)	墨・紙	額	33.2 × 51.0
9	藤根 凱風	和古	1985(昭和60)	墨・紙	額	68.7 × 134.2
10		獣骨文字	不詳	獣骨		16.0 × 14.0 × 4.0

裏面に続く

北海道立函館美術館 Hakodate Museum of Art, Hokkaido

出品作品リスト *No.1、7 函館市蔵(当館寄託)、2-6、8-15 当館蔵

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	形状	寸法(縦×横、もしくは幅×奥行×高さcm)
-----	-----	-----	-----	-------	----	-----------------------

11	獸骨文字	不詳	獸骨	15.0	×	5.5	×	1.0
12	獸骨文字	不詳	獸骨	10.0	×	5.0	×	2.0
13	龜甲文字	不詳	龜甲	10.5	×	7.5	×	4.5
14	龜甲文字	不詳	龜甲	10.5	×	7.0	×	1.5
15	龜甲文字	不詳	龜甲	7.5	×	5.0	×	2.0

北海道立函館美術館 Hakodate Museum of Art, Hokkaido